



さくらい ひでゆき
櫻井 英幸 教授

1988年群馬大学医学部卒業。英ケンブリッジ大学留学。群馬大学大学院医学系研究科准教授などを経て、2012年から現職。筑波大学附属病院陽子線治療センター部長兼任。

1983年に陽子線治療の臨床研究をスタートさせ、長い歴史を誇る筑波大学。現在も国内の放射線治療をけん引する存在で、同大学の放射線腫瘍学の櫻井英幸教授は、最新の医療技術、医療機器の開発を進めながら人材育成にも注力する。

―講座の特徴や強みは。

当講座では、ほぼ全ての放射線治療が可能です。例えば、粒子線治療(重粒子線と陽子線)施設が全国に25施設ありますが、その中でも当大学は長い歴史があります。

放射線源を患部に挿入する組織内照射は特徴の一つ。複雑な手技であるため、この治療ができる医師は少なくなりつつありますが、治療率が高く、当講座では今後も継承していく方針です。

近年は、核反応を利用してがん細胞を選択的に破壊する「ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)」の機器開発と研究に力を入れていきます。近々私たちが開発した機器を用いて悪性脳腫瘍の臨床試験を開始する予定で、今後3年で成功させたいと考えています。

講座全体の強みとしては、教育・研究環境が挙げられます。当大学には医学物理学・生物学の研究室があり、一緒に人材育成に取り組んでいます。大学周辺には高エネルギー加速器研究機構などの研究施設が集積しており、幅広い応用研究ができます。

―人材育成について。

入局者には、社会人として成長するための「3段階」を必ず伝えていま

講座クローズアップ

筑波大学医学医療系 放射線腫瘍学

新たな治療法研究に注力、国内の放射線治療をけん引

す。初級では、一般的な社会人にも共通する「あいさつ・返事・相談ができること」。中級になると、「好奇心があること、論理的であること、小さな目標と大きな目標を持つこと」。これができて、大体一人前の社会人・医療人になれます。上級は、なかなか難しいですが、「いつも機嫌が良いこと、情緒的であること、人を許せること」の三つです。

全員で話し合いができるような雰囲気づくりを心掛けています。カンファレンスなどの円滑なコミュニケーションを大切にしながら、個々のクリエーティブな能力を引き出したいと考えています。

―今後の目標は。

放射線治療は、がんの3大治療の一つです。しかし、日本は諸外国に比べて放射線治療が十分に普及しておらず、国内企業の機器開発も活発とは言えません。今後は日本国内で放射線治療の普及が進むよう、啓発活動に力を入れたい。特に、日本が世界をリードできる新しい粒子線治療の機器開発には積極的に関わりたいと思っています。

診療の方針は、「標準治療に付加価値をつける」ということです。単にガイドラインに従った治療を提供するだけでなく、「この治療をここで受けて良かった」と言ってもらえるような、丁寧な説明、適切な副作用対策、アウトカムの改善などといった付加価値を提供できるように心掛けています。

もう一つ、医療安全やモチベーションにも関連しますが、当講座では業務の結果だけでなくプロセスを重視して、なぜそうしたのか、個々の考え方をきちんと発言できて、